

長野県植物研究会第 216 回及び第 217 回例会報告 その 1

堤 久*・大塚 孝一**

第 216 回及び 217 回例会 (2017 年 10 月 7 日～8 日) は、下伊那郡高森町で、一日目は松岡城址周辺、二日目は不動滝～天白公園で行われた。

二日間の活動日程

第 216 回例会 10 月 7 日 (土)

午後 1 時、高森町松岡城址駐車場に集合
 午後 1 時 10 分 写真撮影
 午後 1 時 15 分～午後 4 時まで
 松岡城址一周の植物観察
 午後 5 時 高森町研修センター森の家に入館
 午後 6 時～8 時 懇親夕食会
 午後 9 時～10 時 研修会 (話題提供)
 午後 10 時 30 分～ 情報交換会

第 217 回例会 10 月 8 日 (日)

午前 6 時 30 分 朝食
 午前 7 時 30 分 研修センター出発
 午前 8 時 天白公園着 付近の観察
 午前 8 時 30 分 不動滝に出発
 午前 9 時 不動滝に到着 写真撮影
 午前 9 時 10 分～午後 4 時
 不動滝～天白公園の植物観察
 午後 4 時 30 分 天白公園で終わりの会 解散

1 日目の 216 回の参加者は、佐藤利幸、堤久、大塚孝一、早坂祥彦、中西由美子、太田秀子、星山耕一、野林朝香、笠原光枝、小柳津有香、山田愛、神林清文、小林正明、篠原喜連、坂口峻弥、石井高子、伊藤伸二、山本裕美、藤田淳一、佐藤稔、松島高根、山田拓、宮下明子、藤本静、林卓子、尾関雅章、島野光司、蛭間啓、橋本光子の 29 名。

宿泊は高森町の「研修センター森の家」で、宿泊者は 27 名。

2 日目の 217 回の参加者は、佐藤利幸、堤久、大塚孝一、早坂祥彦、中西由美子、太田秀子、野林朝香、笠原光枝、小柳津有香、山田愛、神林清文、小林正明、篠原喜連、坂口峻弥、上野勝典、上野由

貴枝、山本裕美、井浦和子、藤田淳一、佐藤稔、加藤範夫、松島高根、山田拓、宮下明子、藤本静、林卓子、尾関雅章、島野光司、蛭間啓、橋本光子の 30 名。

1 日目は午後 1 時に松岡城址の広い駐車場に集合し、はじめの挨拶、自己紹介の後、集合写真を撮る (写真 1、2)。写真のバックは今年度 NHK の「おんな城主直虎」に縁のある名刹「松源寺」である。

松岡城址は段丘の突端にあり、南側は洞 (銚子ヶ洞) で遮られ、東側は段丘崖となり、北側は緩やかな沢 (間ヶ沢) になっている。植物観察は、松岡城址の南洞 (銚子ヶ洞) から下り、東側の段丘崖の下を通り、間ヶ沢を上がるという城址の周囲を一周するコースである。駐車場は標高 566 m ほど、段丘崖の下は標高 465 m ほどで標高差が 100 m ほど。

観察会は、参道から銚子ヶ洞に入る。洞の入り口の草藪にはヨウシュヤマゴボウ、ゲンノショウコ、ハナタデ、オヒシバ、メヒシバ、スベリヒユ、オオイヌノフグリ、ニワホコリ、ハキダメギク、センダングサ、コセンダングサ、アメリカセンダングサ、アキノエノコログサ、アメリカネナシカズラ、ベニバナボロギク、アメリカイヌホウズキ、ヤマハッカ、ミズヒキ、オッタチカタバミ、カキドウシ、アブラススキ、ヒメアシボソ、ササガヤ、チヂミザサ、ヒメカンスゲ、ヤブランなどの草本が観察される。木本には、マダケ、ツノハシバミ、オオモミジ、バッコヤナギ、オニグルミ、モミジイチゴ、ニガイチゴ、ムラサキシキブなどが見られる (写真 3)。

スギやヒノキの高木が茂る洞に入ると、林冠が被われて洞全体が薄暗い。ここには日陰を好む植物が多い。小道沿いにヤブコウジ、オオバジャノヒゲ、オモト、エビネ、ダイコンソウ、ヤマホトトギス、ウド、ヌスビトハギ、オニマタタビ (キュウイーフールの野生化したもの)、キンミズヒキ、イヌトウバナ、ムラサキニガナ、ノササゲ、ヒカゲノイノコヅチ、ミヤマキケマン、センニンソウ、ヤマキツネノボタン、ユウガキク、シラヤマギク、クモキリソウ、アマチャヅル、スルガテンナンショウ、サワギク、アキノギンリョウソウ、スズカアザミなど。

水が流れる沢沿いには、ヤマゼリ、ツリフネソウ、

* 堤 久 〒399-3303 長野県下伊那郡松川町大島 1008-15

** 大塚 孝一 〒380-0952 長野市宮沖 199-1

クサコアカソ、ヒカゲミゾソバ、セキショウ、タマアジサイ、ヤブミョウガが生育。

シダ植物は、ヤワラシダ、リョウメンシダ、ベニシダ、タカヤマナライシダ、ホソバイヌワラビ、ヤマホソバイヌワラビ、ヤブソテツ、アイアスカイノデ、キヨタキシダ、シシガシラ、ハクモウイノデ、サイゴクイノデ、キヨスミイノデ、ツヤナシノデモドキ、フジオシダ、フモトシケシダ、ミドリヒメワラビ、アカハナワラビ、ミヤマクマワラビ、フユノハナワラビ、オオハナワラビが見られる。

城址の東側に回ると、植生はアラカシ、アベマキ、コナラ、アオハダ、エゾエノキなどの二次林に変わる。ここで注目されるのは、ササ類のキボウシノ、メンヤダケであること。節から多数の枝が出てこんもりとしているのがキボウシノ、節から1本の枝が出ているのがヤダケであるが、ここに見られるヤダケはキボウシノ?と交配してできた雑種のメンヤダケであるという。

城址の北側、間ヶ沢を上がる。ヒノキ林の林縁にはコナラ、エノキ、ヒメグルミ、カジノキ、タラノキ、ウワミズザクラ、ニシキギ、カマツカ、イヌシデ、アカシデなどの木本も生え、アレチウリ、マルバルコウソウ、ガガイモ、エビズル、ノブドウ、アオツヅラフジ、コボタンヅルなどのつる植物、イヌタデ、コウゾリナ、オオニシキソウ、セイヨウタンポポ、オオヒヨドリソウ、ノコンギクも見られる。

坂道を上がり、田畑の畔や草藪にはクリオザサ、アメリカスズメノヒエ、ワレモコウ、クワクサ、ツルボ、オヘビイチゴ、コウヤワラビ、アキノウナギツカミ、オオオナモミなど、水田にタケトアゼナ、クログアイ、ヒメクグも生えている。

松岡城址一周の観察が終了しもとの駐車場に戻ったのは、計画通り午後4時。車で10分ほど、宿泊地の高森町研修センター「森の家」に着く。

各自部屋に入り、女子は入浴を済ませ、午後6時に食堂に集合し、懇親夕食会、話題提供に移る。

話題提供の題名と提供者は

「ツツザキヤマジノギクは何者ぞ」	堤 久
「飯田・下伊那のベンケイソウ科」・「ササユリの保全活動」	小林正明
「これからきちんとみていこう」	藤田淳一
「台湾の植物紹介」	笠原光枝
「飯田下伊那のトンボ類の今」	山田 拓

である。

第2日は宿舎から車で10分ほどで天白公園に

到着。今日の観察は天白公園～不動滝間、この間の距離は5kmほど、天白公園の標高は650mほど、不動滝は1096mほどで、標高差は446mほどもある。そこで、車に分乗して不動滝まで上がり、下りながら観察をするという行程にした。まず、一気に不動滝に上がる。高さ50mほどもある勇壮な滝である。これをバックに集合写真を撮り（写真4）、観察に移る。

滝周辺には、ヒダアザミ、ダイモンジソウ、フクオウソウ、シロヨメナ、ホツツジ、オオモミジ、クレソン、ベンケイソウ、トネアザミ、コモチマンネングサ、ネコヤナギ、オノエヤナギ、シラネセンキュウ、ヒメレンゲ、クサコアカソ、ツリバナ、モトゲイタヤ、ヤマオダマキが見られる。林道・不動滝線を下って行く。微小なシダ、オオクボシダ（上野勝典氏が見出す）やオシヤグジデンド、ホソバコケシノブ、ホテイシダ、イワデンド、クジャクシダなどのシダ類も見出される（写真5）。

林道脇にはイヌブナ、ツクバネ、クマシデ、ウリノキ、ヤマナシ、コミネカエデ、ウスゲクロモジ、エビガライチゴ、オオツルウメモドキ、ミヤコイバラ、シバヤナギ、バッコヤナギ、キダチコマツナギ、ホソエカエデ、マルバサンキライ、アブラチャンなどの木々や、リュウノウギク、ギンラン、ホソバハナタデ、ヨツバヒヨドリ、ナンバンハコベ、ヤクシソウ、ケゴンアカバナ、ヤマホタルブクロ、ホソバツルリンドウ、テンナンショウ（キタマムシグサ?）、トリカブト（カワチトリカブトとツクバトリカブトか）、などが生育。

午前12時、現地のスタッフのよって調理仕立てのお弁当が配布される。林道の草地に腰を下ろして各々至福の時間を楽しむ。

林道を下降しながら、観察を続ける。

シラキ、ガマズミ、ミヤマヤシャブシ、イヌガヤ、キブシなどの木々や、セキヤノアキチョウジ、オオカモメヅル、ミヤマタニソバ、シデシャジン、ミヤマシシウド、ホソバガンクビソウ、ミツモトソウ、ヤマゼリ、ササガヤ、カラスノゴマ、ヒキオコシなどの草花、イヌワラビ、オオハナワラビ、アカハナワラビ、ナガホナツノハナワラビ、オオシュモクシダなどのシダ類も見られる。オオシュモクシダは、上野夫妻や佐藤教授によってスギ林で見出されたもので、ジュウモンジシダの品種である。参加者は思い思いに観察を続けるので、天白公園に到着するもの、まだまだ時間がかかるものもいる。現場スタッフにより、マイクロバスが運用され、全員、定刻の

午後4時に天白公園に集まる。終わりの会后、伊那谷名産の梨は有りの実という。思い出有りの一つの梨をお土産にして解散となりました。お疲れさま

でした。今回の例会は高森町の後援や地元の町誌編集関係者の皆さまのご協力をいただきました。大変ありがとうございました。



写真1 集合写真（松岡城址）



写真2 標本採取用の新聞配布



写真3 観察会の様子



写真4 集合写真（不動滝）



写真5 観察会の様子